



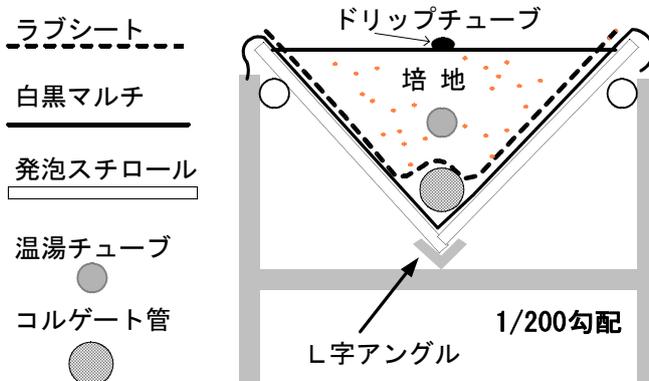
イチゴの簡易高設栽培システムの開発

近年、イチゴ栽培は軽労化や省力化を目的とした高設型の養液栽培が全国的に普及し始めており、徳島県ではこの3年間に急激にイチゴの高設栽培が普及し、現在では約18haの面積になっています。しかし、現在のシステムでは施設費の高いものが多く、農家の負担となっています。また、栽培技術面でもマニュアルが確立されておらず品質・収量が不安定で問題となっています。

そこで、環境に配慮したヤシガラ培地を使用し、安価で手軽に導入できる高設栽培システムを開発しました。

【開発した高設栽培システムの特徴】

栽培ベッドは、発泡スチロール板（厚さ：20mm程度）を三角形に組んだ枠にヤシガラ培地を詰め底部にコルゲート管を配し、培地内に培地加温ができるように温湯チューブを配管しています。また、給液はドリップチューブで行い、ベッドは1/200の勾配があるため余剰水はベッドの末端で集水でき、ハウス内への廃液のポタ落ちはありません。（第1図）



第1図 徳島農研方式のベッド構造
注) 培地はヤシガラ



徳島農研方式ベッドを用いたイチゴ栽培

また、養液土耕用肥料を用いた1液方式であるため、培養液供給装置の低コスト化や栽培管理の簡素化が可能です。施設費は工事費別で10a当たり約270万円と従来のもものよりも20%程度安くなっており、現在34戸の農家で導入されています。（平成17年9月現在）

新しく本栽培法を実践される方は、普及センター、JAとご相談のうえ下記までご相談ください。

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 野菜園芸担当

TEL (088) 674-1660 FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>